

## 研究部

### 1 目 標

義務教育学校において、全職員で育てたい児童生徒像を共有し、9年間の系統的な指導や学びの在り方についての研究を推進する。

### 2 今年度のゴール

- ①核となる体験活動と各教科との関連をもたせた年間計画の作成
- ②キャリア教育で育てたい力の評価（見取り方法）についての研究
- ③本校独自のキャリアパスポートの作成及び活用推進

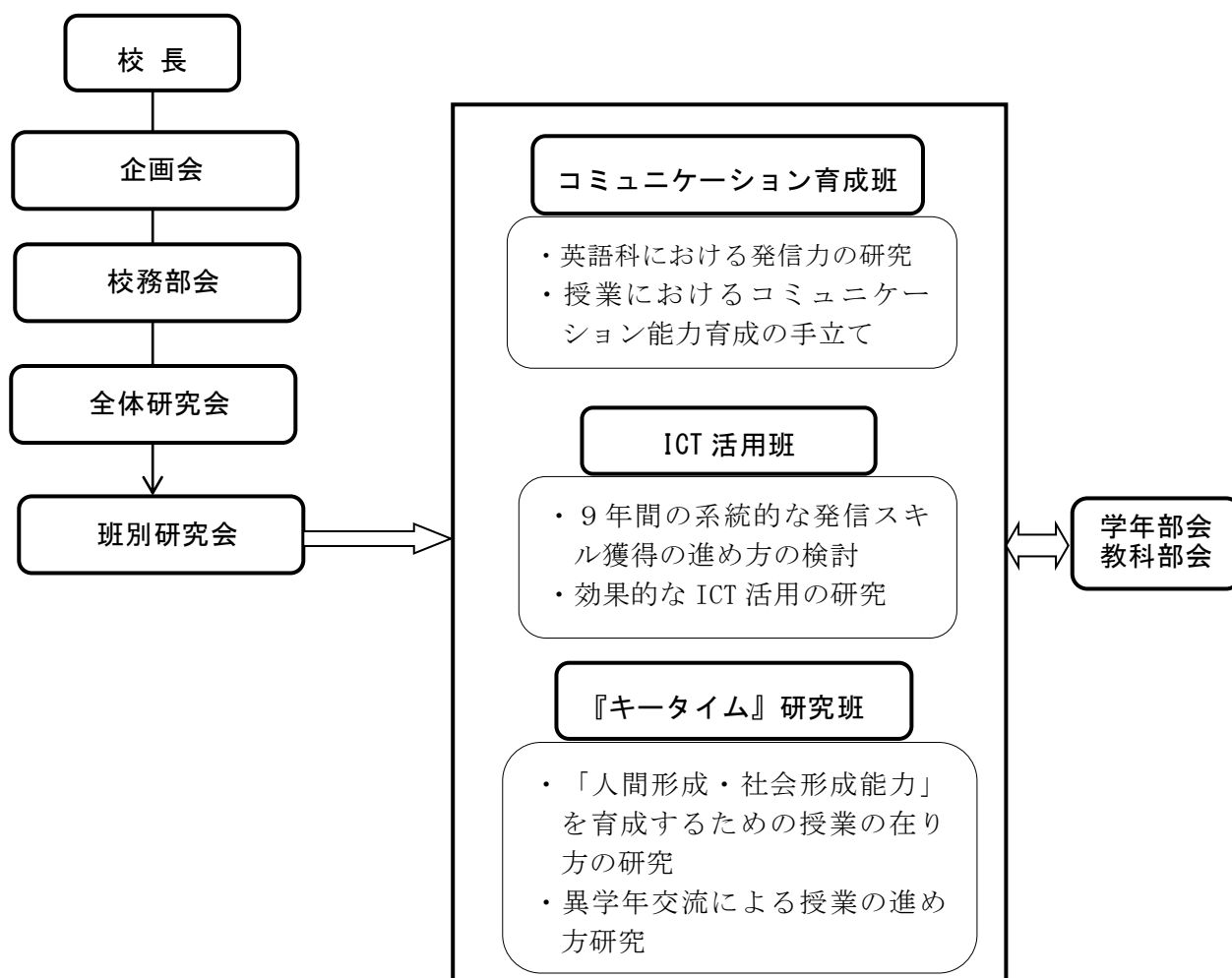
### 3 活動内容

- ①主題研究推進
- ②核となる体験活動と各教科等との関連をもたせた年間計画の作成
- ③身に付けるべき力の評価の在り方の研究
- ④本校の実態に沿ったキャリアパスポートの作成・活用推進
- ⑤キャリア通信発行
- ⑥ICT活用の推進

### 4 年間計画

5～6月	・昨年度のアナケート結果を児童生徒に説明し、身に付けたい力についての理解を図る。 ・各班での研究内容検討
7～8月	・各班での研究内容決定・実施に向けた準備・職員の共通理解
9月～12月	・各班での研究内容実施・振り返り ・核となる体験活動を中心とした、各教科等との関連をもたせた年間計画の作成
1月	・今年度の実施内容報告
2月	・研究のまとめ 来年度の研究計画構想

## 研究組織（案）



5 総合的な学習の時間「キータイム」全体計画

【学校の教育目標】
ふるさと木城を愛し 目標をもって主体的に学び 思いやりとやさしさのある 心身共にたくましい児童生徒を地域と共に育成する

【本校における総合的な学習の時間の目標】

知識・技能	ふるさと木城の魅力や課題、その要因などを探究するための適切な課題の設定やその解決に必要な情報を収集・分析するために必要な技能を習得し、活用することができる。
思考・判断・表現	課題解決に必要な様々な情報を関連付けたり、分析したりしながら、根拠に基づく考察や判断をし、その結果を適切に表現できる。
主体的態度	主体的な対話や協働を通して自分の考えを深め、地域等から学んだことを踏まえて、将来の自己実現や生き方について考えることができる。

ステージ 及び学年		総合的な学習の時間・生活科の学び 及び核となる体験活動	体験活動の学習サイクル〔RARK〕
第Ⅰ ステージ	1 年	* 学校探検（2年生との交流） * 地域との交流（梅ジュース作り・秋のおもちゃ作り・昔の遊び）	<div>Readiness(既有知識・経験) ☆自分が何を知っているか ☆どんなことを経験しているか ☆疑問に思っていることは何か ☆何を知りたいか、学びたいか ☆事前に調べたこと</div> <div>↓</div> <div>Activity(挑戦・解決) ☆活動する、やってみる ☆調べたことを確かめる ☆疑問点・知りたいこと・学びたいことについて質問する ☆わかったこと、経験したことをまとめていく</div> <div>↓</div> <div>Review(学びのまとめ・批評) ☆何がわかったか ☆何を学んだか ☆疑問は解決したか ☆さらに疑問に思ったことはないか</div> <div>↓</div> <div>Keep Learning(学びの持続) ☆学びは自分にとってどのような価値があったか ☆地域と自分とのつながりはどう変化したか ☆これからの学びへのつながり</div>
	2 年	* 地域施設探検 (リバリス・役場・商店街・福祉施設)	
	3 年	* 地域自然探検 (川原公園・小丸川・ダム・オニバス)	
	4 年	* 地域伝統体験 (比木神楽・中之又神楽・盆踊り) * 美郷南学園との交流	
第Ⅱ ステージ	5 年	* 地域農業体験（田植え・稲作・稲刈り） * 地域との交流（農業・林業・畜産業・福祉を学ぶ）	
	6 年	* 地域の歴史を学ぶ（古墳・史跡・偉人） * 地域の学びを発信（他校・修学旅行）	
	7 年	* 上級学校及び地域の職場見学 * 地域を語る会Ⅰ（福祉の視点で地域を見直し、自分の地区でできることを考える）	
第Ⅲ ステージ	8 年	* 修学旅行（木城会との交流） * 職場体験学習（福祉施設を含む）	
	9 年	* 企業と語る会（職場体験の学びを活かす） * 地域を語る会Ⅱ (地域と連携した活動～地域でできることを発信し、実践する～)	

各教科等	特別活動	校内研究
○ 学びに向かう力 ○ 探究に必要な知識・技能 ○ 情報や知識を活用する力 ○ 郷土愛、伝統文化尊重 ○ 社会参画、勤労 ○ 向上心、個性伸長 など	一人一人のキャリア形成と自己実現に向け、総合的な学習の時間で学んだことをもとに自分の生き方等を考えさせる。	○ 英語科における発信力の研究 ○ 授業におけるコミュニケーション能力の育成 ○ 9年間の系統的な発信スキルの獲得 ○ 効果的な ICT 活用の研究 ○ 「人間形成・社会形成能力」を育成するための授業の在り方 ○ 異学年交流による授業の進め方 など

## 6 ふるさと・キャリア教育の全体計画

学 校 の 教 育 目 標	
ふるさと木城を愛し 目標をもって主体的に学び 思いやりとやさしさのある 心身共にたくましい児童生徒を地域と共に育成する	

児童生徒の実態
<ul style="list-style-type: none"> <li>・言われたことには素直に取り組むが、自ら積極的に取り組む姿勢には課題が見られる。</li> <li>・学習に対する関心はあまり高くなく、将来と今の学びとのつながりを考える意識をもたせる必要がある。</li> </ul>

地域の実態や保護者の願い
<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内唯一の学校であり、地域住民の期待は大きい。</li> <li>・強い意志をもち何事も最後までやり抜く児童生徒</li> <li>・思いやりがあり、人間愛にあふれた児童生徒の育成</li> </ul>

キ ャ リ ア 教 育 の 目 標
将来の社会貢献や自己実現に向けて努力することができる力や態度を育成するためのキャリア教育を推進する。

キャリア教育を通して育てたい力				
	1 人間関係形成・社会形成能力	2 自己理解・自己管理能力	3 課題対応能力	4 キャリアプランニング能力
	<b>他者とうまくやっていく力【合意形成力】</b> 相手のことを理解しようと努めながら、自分の主張もする中で、相手と折り合いを付けたり、合意形成し たりすることができる。	<b>自ら考え行動しようとする力【考動力】</b> 失敗を重ね、得た学びを次に活かしながら自分に自信を付けていき様々なことにチャレンジする。	<b>自分で課題を見つけ、粘り強く解決しようとする力【やり抜く力】</b> 常に問いをもちながら自分で考え自分なりの答えや解決方法を見出していこうとする。	<b>今と将来のつながりを考える力【見通す力】</b> 現在の学びと将来の夢や目標とのつながりを考えながら常に先を見通して考えていく。
第Ⅰステージ (1～4年)	自分の考えや思いを適切な言葉で他者に伝えようとする。 相手の話を聞きながら、相手のことを理解しようとする。	日々の活動や係活動に友達と共に進んで取り組む。 自分のよさや得意なことなど、様々な体験から自己理解を進める。	身近な社会（家庭・学校・地域）を知り、関心をもって理解を深める。 自分が調べたことや考えたこと、思いなどを他者にわかりやすくまとめ、伝えようとする。	学んだことと、自分の生活との関わりを見つける。 自分があこがれる人や生き方を見つける。
	<b>【1の具体の姿】</b> あいさつを返すことができる。 自分からあいさつをすることができる。 気持ちのよい返事ができる。 素直な気持ちでお礼の言葉を言える。 友達のよさを見つけることができる。		<b>【2の具体の姿】</b> 自分の好きなことや得意なことを見つけることができる。 自分の言動を振り返ることができる。 学級や学校のきまりを知り、守って生活ができる。 自分の苦手なことがわかり、それを克服しようと努力したり、周りに助けを求めようとする。	
第Ⅱステージ (5～7年)	他者の考えや思いを理解しようとして聞いたり、他者の考えを取り入れたりしながら、自分の考えや思いをもつ。 自分の考えや思いを相手にわかるように伝える。	自分の強みを活かし、日々の活動や係活動に進んで取り組む。 活動の中でうまくいったこと、いかなかったことについて分析し自分には何が必要かを考えて実践しようとする。	身近な社会（家庭・学校・地域）の実態を知り、よさや課題を見いだす。 自分が課題と捉えたことを根拠をもとに伝え、その解決方法について考える。	学ぶことの意味や意義を考え、自分の将来との関わりを考える。 自分があこがれる人や生き方を参考に、自分の生き方について考える。
	<b>【1の具体の姿】</b> 一人でも、いつでも、どこでも自分から先にあいさつができる。		<b>【2の具体の姿】</b> 自分の強みを理解し、自分の役割を發揮することができる。 自分で課題を見つけ、自分が何をやるべきかを考えて行動することができる。	
第Ⅲステージ (8～9年)	他者の考えや思いを理解しようとして聞いたり、他者の考えを取り入れたりしながら、自分の考えや思いを構築する。 自分の考えや思いを他者に伝え、相手の考えも聞きながら様々な視点から意見交換をする。	自分に何ができるか、自分は何がしたいかを考えて自分のもっている力を活かして活動する。 課題と自分との関係を問い直ししながら、主体的にチャレンジし続ける。	身近な社会（家庭・学校・地域）の課題に気づき、他者と語り合い、自分の考えや思いを伝える。 自己の課題に対する取組や必要な方法について自分で考え、実践していく。	学んだことを、これからの自分の将来にどのように活かしていきたいかを考える。 自分の生き方について他者に発信し、様々な視点から見直しながら確立していく。
	<b>【1の具体の姿】</b> 最高学年・ステージであることを意識し、伝統をつくる。 自分たちを客観的に見ることができる。 広い世界との接点を意図的にもつことができる。 相手が自分の言動をどう受け止めるかをよく考える。		<b>【2の具体の姿】</b> 集団の中で、自分のあるべき姿を判断し、行動する。 集団の中での課題と自分との関係を問い直す。 個人の課題（自分は～ができていない）と自分（なぜなら～）との関係を問い直す。 集団の中で何ができるか、自分は何がしたいかを考えて、自分のもっている力を發揮して行動できる。 最上級生の様々な姿を見て、下級生が憧れを抱けるような「自分」をつくっていく。	

キ ャ リ ア 教 育 を 推 進 す る 基 盤
学校教育全体を通した9年間の系統的な取組：各教科・特別活動・総合的な学習の時間「キータム」と関連させた教育活動の展開。 家庭との連携：キャリア通信等による学校からの情報発信に努め、共に子どもの職業的・社会的自立を支援する。キャリアパスポートの活用。 地域との連携：地域の教育資源や人材を的確に把握し、その積極的な活用を図り、共に子どもの職業的・社会的自立を支援する。

## 7 特別活動全体計画





### (1) 目標

- ## (2) 努力目標

- ### (3) 年間計画

#### (4) 具体的取り組み

- 児童生徒用端末や、教師用端末や周辺機器等の所在や故障等の状況を整理し把握する。

- 児童生徒や職員のクラウド上の学習支援ソフトや遠隔会議ソフト等の運用に関わるＩＤの発行や廃止、端末へのアプリケーションのインストールの管理を行う。

- 職員向けに校務や授業で活用できる具体的な知識や技能、情報社会での態度に関わる研修を行う。  
※ＩＣＴ支援員との連携を図りながら業務を進めること。

(5) 9年間を通して身に付けさせたいスキル

学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9
調査	五感を通し、大切な情報が何であるかわかる。		インタビューや写真撮影の仕方や活用方法を知る。インターネットで検索をできる。		インターネットを活用し、様々な情報入手し、比較し、妥当性を検討しながら自分が必要な情報に絞り込んで調べることができる。			ネットワークを活用し、遠隔地の人々と交流し、情報を入手できる。	
整理	物事の類似点や相違点を指摘できる。		集めた情報を比較し、共通点や相違点を整理できる。		図や表、グラフなどを活用し、情報を整理することができる。			情報やデータの効果的な提示の仕方を考えながらまとめることができる。	
発信	自分の考えや思いを絵や文で表現できる。		スピーチや新聞などで分かりやすく相手に伝えることができる。		動画やプレゼンテーションをつくり、自分の考えを伝えることができる。			プレゼンテーション作成や動画編集を通し、外部に自分の考えを効果的に発信できる。	
モラル	人と関わるマナーを守る姿勢を身に付け、ネット上のマナーの基礎を築く。		相手の気持ちを考えたメッセージの伝え方を考えられる。		インターネット上の情報の妥当性を考えながら活用し、発信すべきことがら、そうではないことがらを区別できる。			インターネットの利便性と危険性を理解し、安全にネットワークを利用できる。	
スキル	・PCの起動・終了 ・ブラウザの起動 ・ペイントソフト等の使用 ・文字の入力 (音声・タッチペン、ローマ字入力の導入)		・ブラウザ ・デジタルカメラ（PCのカメラ機能） ・PCの録音機能 ・ワープロソフトとキーボードの活用。		・表計算ソフト ・プレゼンテーションソフト ・動画撮影ソフト			・会議ソフト ・動画編集	
各教科の年間計画に基づいたプログラミング教育									